

Rapport

2018
Number

103

多摩大学 | 広 報 誌 |

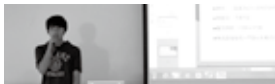
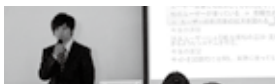
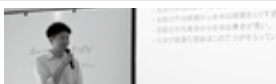
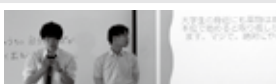
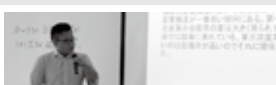
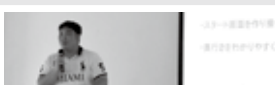
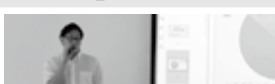
Vol.103 Contents

2018年度 第1回SRC	02
留学生 活動報告	03
経営情報学部後援会 定期総会・教育セミナー	04
日本国際文化学会 第17回全国大会	04
アクティブ・ラーニングプログラム／インターゼミ	05
多摩大学体育会フットサル部・女子フットサル部	05
キャリアサポート	06
大学院MBA 特別公開体験講座	06
News	07
〈連載〉地域再発見 多摩地域の名所・旧跡①【藤沢宿】	07
卒業生インタビュー	08

2018 年度 第 1 回 SRC (Student Research Conference)

2018 年 7 月 21 日、多摩キャンパス 211 教室と 212 教室にて SRC (Student Research Conference) が開催されました。SRC は経営情報学部がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年 2 回 (夏・冬) 行っています。

今回の SRC では 21 件の発表があり、持ち時間は 1 件につき発表 5 分と質疑応答 5 分の合わせて 10 分が与えられました。質疑応答では教員や学生から、「統計はどのような方法で取ったのか?」「今後の方向性は?」「考察に至る経緯をもっと詳しく示した方がよい」「仮説をもちながら分析すれば、もっと内容が深くなるのでは」「結論には調査の結果を入れた方がよい」など様々な質問や意見、アドバイスがありました。

プログラム	
211 教室	212 教室
「ゲームの調査」 大森拓哉ゼミ 渡邊 朗伸、清水 茉歩、平山 佳苗 	「色の調査」 大森拓哉ゼミ 平田 大貴、海藤 広、高田 真由 
「スポーツの調査」 大森拓哉ゼミ 山口 裕也、岩渕 匡太、高橋 歩夢 	「一体型 VR 展示会に参加して」 彩藤ひろみゼミ プロジェクト代表 横山 大悟 
「統計データからの人口分析」 大森拓哉ゼミ 小野寺 亮 	「小西研究会 活動報告」 小西英行ゼミ 岡田 優貴 
「ヘアサロン POS データにおけるクーポン利用顧客の傾向とその組み合わせ」 久保田貴文ゼミ 稲庭 克洋 	「地元の人が更新できる Web サイトによる観光振興」 出原至道ゼミ 齋藤 星太 
「睡眠時間の重要性」 大森拓哉ゼミ 千葉 航輝、中山 凱 	「今年もみんなで節電しよう!」 大森拓哉ゼミ 石川 将基、小島 龍郎 
「日本人は健康だ」 大森拓哉ゼミ 篠原 大輔、角田 信鳳、坪井 優吾 	「靴の調査」 大森拓哉ゼミ 杉谷 佳希、秋山 京吾、真坂 省吾 
「stop! 薬物!」 大森拓哉ゼミ 上野 一将、小杉 拓哉、佐藤 太一 	「VR ゲーム 真珠集めを製作して」 彩藤ひろみゼミ チームリーダー 栗本 寛太 
「原因・動機別自殺者とその地域の産業構造について」 久保田貴文ゼミ 小原 慎逸クリスピクター 	「VR ゲーム ブロック崩し」 彩藤ひろみゼミ チームリーダー 荒井 直樹 
「テキストマイニングを用いたシラバスの授業内容および到達目標とディプロマポリシーとの関係」 久保田貴文ゼミ 中山 貴文 	「彩藤ゼミ VR ゲーム (シューティング)」 彩藤ひろみゼミ チームリーダー 折本 卓巳 
	「効果的なダイエットは何か?」 大森拓哉ゼミ 中島 麻莉奈、周 夢瑩、夏目 俊成 
	「芸能人調査」 大森拓哉ゼミ 金子 拓海、品川 勇樹、佐藤 奈々 
	「髪型の調査」 大森拓哉ゼミ 村下 駿、浦橋 大地、松山 明日翔 

Matthieu LIVRAN

During my fourth year at ESIEA, I had the opportunity to make my technical internship in Tama University, in the virtual reality laboratory of Mr. Idehara. This was a chance to enhance my technical skills as well as my Japanese skills.

The opportunity of entering this internship was made possible thanks to the relationship between ESIEA and Tama University, established by Mrs. Loubet and Mr. Idehara. The purpose of this internship is to assimilate the global principles of virtual reality, as well as mastering the main software and techniques of VR. I have been motivated for this internship since I entered ESIEA. I heard about it during the international days and have studied Japanese and coding for this purpose.

This project is about creating an immersive VR experience based on the user's balance. The game lets the player walk on a virtual ball, and progress in the three levels by avoiding holes and enemies. The control of the ball is made via a wooden balance-board the player stands on.

During these four months, I have been able to enhance my coding and Japanese skills. I got more familiar with VR techniques and methods and I have been able to make a first approach of game design and levels design. This was a wonderful experience that I would like to meet again in my first job. The last four months were some of the best in my life. To be able to experience the Japanese daily life, while enhancing my coding and Japanese skills and working in a laboratory was very stimulating.

Working in a Japanese laboratory made me realize how much I like the Japanese culture. I already came to this country last year with Horizon Japan, but this was a totally different experience. I am glad I have been able to come again to work. That comforted me in my professional project, that is to work in Japan.

抄訳)

多摩大学と ESIEA の提携のおかげで、出原先生のもとで、この 4 年生向け技術インターンシップの機会を得ることができました。ありがとうございます。これは、私にとって、バーチャルリアリティ技術やソフトウェア技術、日本語を鍛えるよい機会です。実は、ESIEA に入学したときの私の目標でした。作成したプロジェクトは、ユーザが仮想空間の中で玉に乗って穴や敵を避けるというものです。実際には、木製のバランスボードに乗り、傾けることで制御します。この 4 ヶ月の経験は、人生の中でも最良のものでした。プログラミングや日本語のスキルを高めながら、研究室で作業するということは、大変刺激的でした。この経験を通じて、あらためて、自分がどれだけ日本文化を好きか再確認しました。将来、この分野で日本で働きたいと思っています。

Valentin RAULT

This internship aims to strengthen the student's preparation for the engineering profession, and to make him aware of the requirements of the profession where social and human responsibility is as important as technical responsibility. Dr. Idehara followed the recommendation given by our school and told us that we need to come at minimum of thirty-five hours per week. He let us manage our schedule as we wanted. If we wanted to come earlier or leave later, it was ok.

The freedom we had to develop our project was rewarding. We could use and work with the technology we wanted to use, be more creative, be more efficient. Before this, I always had trouble seeing the whole project. In this project, I had to be autonomous, know exactly what I should do. It was a huge chance and opportunity for me. I am very proud of the result of the project. Now, I know what I can do in four months.

This internship not only brought me technical skills, but also great human experience.

During our group work in video class of professor Saito, I noticed that the students are more used to work together. It brings true group cohesion. It is very different from what I am used to. There was also another cultural event proposed by Professor Idehara and his wife. We could participate in the traditional takoyaki party. It was followed by the Meishi lesson of Ms. Idehara on how to make and give a business card. We learned that business card has a very strong signification in Japan because it is the first impression you give to your interlocutor.

This immersion into a foreign country brought me more life experience, technical skills and human relation than any companies in France could. I cannot thank enough the people who gave me this opportunity.

抄訳)

このインターンシップの目的は、専門的な技術者となるために、技術面だけでなく社会性や人間性の必要を学生に認識させるところにあります。出原先生からは、週 35 時間の作業が求められましたが、細かい時間管理は私達に任せられました。また、開発内容についても、自分たちで決めることができました。これまでは、プロジェクト全体を見渡すことは苦手でしたが、今回、自発的に自分たちが何をしなければいけないか考え、創造的・効率的に開発に取り組むことができました。4 ヶ月という短い期間で達成された今回の成果を、私は誇りに思います。文化交流面では、彩藤先生の講義でのグループワークで、こちらの学生の方が協調性に優れ、グループワークに慣れているという印象をもちました。また、出原先生と奥様には、たこ焼きパーティや名刺の渡し方の指導などをいただきました。今回得た経験・技術・人間関係は、フランスでは得られない貴重なものです。この機会を与えていただいた皆様に、お礼申し上げます。



最終発表審査



合宿でのプログラミングコンテスト (Matthieu、Valentin)



スポーツも

後援会定期総会・教育セミナー 開催

2018年6月24日、多摩キャンパスにて「経営情報学部後援会定期総会・教育セミナー」を開催しました。当日は後援会定期総会と併せて、学内施設の見学ツアー、教育セミナー（経営情報学部の教育方針、学生による多摩大学での成長報告会、ゼミ別懇談会とアクティブ・ラーニング、留学相談会）が行われ、多くの保証人の皆様の参加がありました。

○後援会定期総会

第1号議案（2017年度事業報告（案）・決算報告（案））、第2号議案（2018年度事業計画（案）・予算（案））、第3号議案（2018年度後援会役員選任）について審議され、いずれも承認されました。

○教育セミナー 第1部

中村治幸後援会会長による挨拶の後、杉田文章経営情報学部長より「経営情報学部の教育方針」として、多摩大の実学教育、大学のアクティブ・ラーニング（AL）の取り組みと成果、志・キャリアに関する教育の取り組み等を説明し、加えて、29名（学生20名、大学院生5名、外部講師1名、教員2名、職員1名）が参加したALプログラム「地域観光研究 in 飛騨高山」についても紹介しました。

続いて、「学生による学び・挑戦・志の報告会」では3名の学生が登壇し、「ALプログラム参加」「地域企業との連携活動」「海外留学」のテーマで発表を行いました。「実践的な勉強となった。学生の提案が地域で活かされた」「みんなで手分けして行う大切さを学んだ。行動力・対応力・企画力が身についた」「様々な文化を知ることができた。当たり前でないことが当たり前ではないことを学んだ。グローバル企業から内定を得た」などの成果を発表しました。

○教育セミナー 第2部

各教室に移動し、ゼミ担当教員とのゼミ別懇談会、アクティブ・ラーニングプログラムや留学・学生生活の状況などについて教職員との個別相談会を実施。情報交換や質疑応答など保証人の皆様と教職員が直接交流できる有意義な時間となりました。



後援会定期総会の様子



教育セミナーの様子



学生による学び・挑戦・志の報告



保証人の方とゼミ担当教員が懇談

グローバルスタディーズ学部

「日本国際文化学会 第17回全国大会」を湘南キャンパスにて開催

2018年7月7～8日、日本国際文化学会（会長・岩野雅子（山口県立大学教授））の第17回全国大会が湘南キャンパスにて開催されました。大会テーマは『知の再武装～人は何をすべきか～』。寺島実郎学長の基調講演、パネル・ディスカッション、フォーラム、自由論議（9セッション）、共通論議（6セッション）と非常に充実したプログラムが展開されました。2日間でのべ270名を超える学者や研究者が、天候不順にもかかわらず全国から参加し、白熱した議論を展開しました。

本大会は、実行委員長の安田震一グローバルスタディーズ学部長以下、教職員及び学生スタッフが協力して作り上げました。特に学生の献身的かつ情熱的な働きぶりに対しては、多くの参加者から賞賛の声をいただきました。

大会前日には横須賀にてエクスカージョン（実地研修）を行いました。横須賀市国際協力課のご協力のもと、ヴェルニー記念館、軍港めぐり、浄土寺（三浦按針の菩提寺）、記念艦「三笠」を見学しました。浄土寺では逸見道郎ご住職にご講義をいただくなど「知の再武装」を考えるきっかけとなるエクスカージョンでした。

また、本大会には、安田学部長に加えて5名の教員（王媛、太田哲、田中孝枝、堂下恵、藤田賀久、五十音順）が各セッションにて研究発表や部会の司会等を行い、学術分野においても存在感を示しました。



【エクスカージョン】横須賀・浄土寺にて



学生スタッフ



寺島学長による基調講演



【パネルディスカッション】中野聡（一橋大学副学長）、鳥飼玖美子（立教大学名誉教授）、山脇千賀子（元文教大学教授）、司会 松居竜五（龍谷大学教授）



【フォーラム】ICCO 文化交流創成コーディネーター資格認定制度について考える

多摩大学・帝塚山大学の学生と地域住民が連携し、SNS で地域情報を発信

岐阜県高山市久々野地域において、多摩大学と帝塚山大学、地域の方々と一緒に、Instagram などを活用した情報発信を行いました。この取り組みは、飛騨高山大学連携センターによる支援のもと、7月1日（日）～3日（火）にかけて行われたものです。

2017年11月、多摩大学の学生が久々野地域に対して、「情報発信の推進」を実施するよう政策提言しました。今回は、その提言を学生が自ら実行するプログラムであり、多摩大学からは、大学院・経営情報学部の学生17名、教職員4名が参加しました。当日は、両大学の学生と地域の方々がグループに分かれて、久々野地域を散策し、Instagram や Facebook など地域魅力を発信しました。夜には、地域の方を招いて、学生による発信内容の報告会もあり、大いに盛り上がりしました。地域の方々からは、「政策を提言するだけでなく、実際に一緒になって情報発信をしてくれたことに感激した」「久々野地域に関するネット上の口コミ情報が少ないなど、我々では気づかない視点から意見をいただいた」など、高い評価を得ることができました。



高山市久々野地域の皆様と



学生による報告会の様子

多摩大学インターゼミ多摩学班 多摩市長に若者呼び込み策を提言

7月13日（金）多摩市役所において、多摩大学インターゼミ多摩学班の学生6名が若者呼び込みに関するこれまでの研究成果を報告しました。インターゼミ多摩学班では、昨年度、「若者にとって魅力ある多摩地域の創生」をテーマに研究を行いました。同時に、「多摩市若者まちづくり基礎調査事業」の委託を多摩市から受け、多摩市内外の若者に対するアンケート調査も実施しています。

報告会では、多摩市に対して、①子育て支援の充実、②アニメツーリズムを活用した観光振興、③高齢者の活躍・世代間交流の実現、④高齢者クラウドを活用したモザイク型就労の推進、⑤シェアリングサービスの提供と仕事の創出、⑥大学コンソーシアムの活動を通じた交流活動による若者定住化の6点を若者呼び込み策として提言しました。インターゼミ多摩学班では、今年度、新たに「ジェロントロジー：100年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは」をテーマに研究を進めております。今後も、多摩市の活性化につながるような研究を行っていく予定です。



阿部裕行多摩市長に報告書手渡す
馬場明さん（経営情報学部2年）



学生による報告の様子

多摩大学 体育会フットサル部

※ 試合会場：多摩大学多摩キャンパススポーツアリーナ

〈主な戦績と今後の試合予定〉 (2018.9.3 現在)

○エイブルチャンピオンズカップ

第2回関東大学フットサルリーグ 2018

- 2018.7. 1（日） VS 順天堂大学→5-4で勝利
8.11（土） VS 明治学院大学→1-1で引き分け
8.19（日） VS 桐蔭横浜大学→8-4で勝利
9.22（土） VS 東京国際大学
10.14（日） VS 東京工業大学
10.27（土） VS 横浜市立大学 ※
11.10（土） VS 流通経済大学
11.24（土） VS 慶應義塾大学サッカー部
12. 2（日） VS 東京大学
2019.1. 27（日） VS 慶應義塾大学エルレイナ

○Super Sports XEBIO 東京都大学フットサルリーグ 2018

- 2018.9.15（土） VS 東京経済大学
9.30（日） VS 桜美林大学 ※
10.20（土） VS 東京大学 ※
12. 8（土） VS 東京外国語大学
2019.1. 6（日） VS 明治学院大学
1.13（日） VS 東京工業大学 ※
2.27（水） VS 慶應義塾大学

○F育成リーグ

- 2018.7.29（日） VS FIRE FOX→14-3で勝利
8. 5（日） VS アグレミーナ浜松サテライト ※
→8-4で勝利
8.26（日） VS 府中アスレティックサテライト ※
→3-3で引き分け

多摩大学 体育会女子フットサル部

創部後、初めての対外試合を行いました

創部2年目、7名（2年生4名・1年生3名）で活動中の体育会女子フットサル部が2018年7月29日に多摩大学スポーツアリーナにて交流戦を行いました。

立川女子高等学校フットサル部、白梅学園高等学校サッカー同好会、国本女子高等学校フットサル部の皆様との試合をきっかけに、次に向けて日々練習に励みます。

応援よろしくお願いいたします。



女子フットサル部キャプテン 2年 小泉 歩美

創部2年目で、念願の試合をすることができとても嬉しく思っています。自分達でデザインしたユニフォームを着て、チームメイトと楽しく盛り上がるプレーができたので、良い経験になりました。

チーム名の Belinda（イタリア語で「可愛らしく輝く」）の通り、これからも自分たちらしく頑張っていきます！

経営情報学部

大学1年生＝社会人マイナス4年生

経営情報学部教授 就職委員長 良峯 徳和

おかげさまで2017年度の本学経営情報学部卒業生の就職率は95%を超えました。これでも過去5年間連続して95%以上の高い就職率を維持できたことになります。これは社会に出てぜひ活躍したいという本学学生の強い意志と粘り強い就活への努力が実を結んだ結果にほかなりません。



経営情報学部では、入学生を「社会人マイナス4年生」と位置づけ、初年次から一貫通貫したキャリア教育のカリキュラムを準備し、豊かな実務経験、企業とのネットワークを持つ教授陣とキャリア支援専門職員が一丸となって学生と向き合い、きめ細かな就職支援を実施しております。

来たる11月11日には経営情報学部後援会が主催する今年度2回目の教育セミナーが実施されます。今回は「就活生をサポートする保護者のための就活セミナー」と題して、株式会社リクルートキャリア「リクナビ」副編集長の増本全様（予定）を講師にお迎えし、最新の就活事情から就職活動における保護者の役割、あり方などについて、幅広くお話ししていただく予定となっております。あわせて、アンケート調査に基づく多摩大学生の就活状況の実態報告やご参加の皆様からの質問にお答えするコーナーなど、多摩大生の保護者の方々には必見の内容となっております。

ぜひ積極的にご参加いただけますようお願いいたします。

グローバルスタディーズ学部

3年次キャリア支援講座への出席が内定取得のカギ！

グローバルスタディーズ学部教授 就職委員長 堂下 恵

グローバルスタディーズ学部では、キャリア支援課・就職委員会が学生一人ひとりを手厚くサポートし、きちんと社会人になれるように指導しております。直近3年間の就職希望者に占める就職者（名目就職率）の割合は96%、卒業者に占める就職者の割合（実質就職率）は80%です。



キャリア支援課・就職委員会では就職・進路支援に関するプログラムを充実させております。中でも3年生対象に毎週おこなっている「キャリア支援講座」は内定取得につながるとなっておりますので、全3年生に出席するよう呼びかけています。

2018年3月卒業生のうち、キャリア支援講座に2/3以上出席していた学生は8月末までに90%近くが内定を取得しておりました。出席が2/3未満だった学生は同時期に29%しか内定を取得していません。保護者・保証人の皆様にはご子息・ご令嬢に「キャリア支援講座」に出席するよう働きかけていただくと幸いに存じます。

また、航空業界や高級ホテル等への就職を目指す学生を対象に「サービス・エアライン講座」を開講しています。この講座に出席した学生は希望する企業・業界から内定を取得しております。

グローバルスタディーズ学部の就職・進路支援は手厚く充実しておりますが、残念ながら十分利用しないまま卒業を迎える学生がおります。一人でも多くの学生が利用してくれるように願っております。

多摩大学大学院 MBA 特別公開体験講座 開催

多摩大学大学院 MBA は社会人のための超実学志向ビジネススクールで、20代後半から70代まで幅広い年代の方々が学んでいます。2018年7月1日品川フロントビルにて、本大学院入学に関心がある方を対象に「特別公開体験講座～人生を拓く志とビジネススキルを身につける方法～」を開催。寺島実郎学長、経済産業省 産業人材政策室 参事官 伊藤禎則氏、田坂広志教授が、ビジネスパーソンに必要なグローバルな視点やビジネススキルに役立つ知識などについて講演を行いました。また、徳岡晃一郎研究科長による大学院説明会では、本大学院の5つの特長として、経験豊富な実務家講師陣、講師と受講生の距離が近い少人数クラス、充実したイノベーション講座、リベラルアーツ講座、論文プロジェクトを紹介。他のビジネススクールとは異なる独自の強みについて説明しました。

○講演「“知の再武装”が何故必要なのか ～異次元高齢化の時代に～」 寺島 実郎学長

100歳人生といわれる異次元高齢化の時代、定年後に会社員生活よりも長い人生を過ごすことになる。この事実の重みを見ると、社会参画を意識し、自分自身を磨き上げていくことが重要であり、人生戦略の鍵となるのが“知の再武装”である。ジェロントロジー（高齢化社会学）に関心を持ち、時代認識を深め主体的に生きていこうと思う人は、多摩大学大学院での学びに臨むことを期待する。

○講演『「AI時代／人生100年時代」の働き方、学び方 ～社会人学び直しの意義～』 経済産業省 産業人材政策室 参事官 伊藤 禎則氏

「働き方改革」と「人づくり革命」という政策を担当、社会人の学びは重要な位置づけ。働いた期間や時間ではなく、成果とそれを支えるスキルで評価されることが大事。時間と場所に縛られない働き方は多様化し、選択肢も多様化。人生100年時代という現実に企業は成長の機会を提供するなど、個人と向き合うことが必要とされる。

○体験講座「21世紀のイノベーターが身につけるべき『7つの知性』」

田坂 広志教授

21世紀に活躍するイノベーター＝変革リーダーは、「思想」「ビジョン」「志」「戦略」「戦術」「技術」「人間力」という「7つの知性」を身につけなければならない。日々の仕事は学びの場、逆境は成長の機会。志を抱き自らを磨き人間力を身につけていくことで道が開けていこう。



寺島実郎学長



徳岡晃一郎研究科長



田坂広志教授

「大いなる多摩学会」平成 30 年度総会 開催

2018 年 7 月 22 日府中市市民活動センター プラッツにて、「大いなる多摩学会」平成 30 年度総会が開催されました。大いなる多摩学会は、2016 年 7 月 16 日寺島実郎学長を発起人として多摩大学と各界の方々約 80 名と共に設立、産官学民が連携し研究開発を支えるプラットフォームとなることを目指しています。今年度のテーマは「大都市郊外型高齢化に立ち向かうジェロントロジー（高齢化社会工学）の可能性」。大都市郊外型高齢化に直面する多摩地域の課題を解決するための方法論として、これまでの「老年学」とは異なるジェロントロジー（高齢化社会工学）の可能性について、認定 NPO 法人 AEFA アジア教育友好協会 理事長 谷川洋氏のキーノートスピーチ、大学の研究プロジェクト、その他関連プロジェクトの成果や企画を紹介しました。

○総会 第 1 号議案 2017 年度事業報告、第 2 号議案 2018 年度事業計画が承認されました。

○研究プロジェクト報告 ①「健康まちづくり産業」プロジェクト（株式会社ファンケル執行役員 青砥弘道氏） ②「ビッグデータ活用による“大いなる多摩”創生」プロジェクト（佐藤洋行准教授） ③「湘南藤沢におけるインバウンド」プロジェクト（橋詰博樹教授） ④「創業支援プラットフォーム」プロジェクト（松本祐一准教授） ○テーマセッション 平成 29 年度に多摩大学が選定された私立大学研究ブランディング事業の研究概要紹介（小林英夫教授）、ジェロントロジーの実例としてのキーノートスピーチ ○関連研究・プロジェクトの紹介（行政・企業・民間の取り組み紹介、多摩大学のジェロントロジー関連の研究紹介） ○フリーディスカッション 参加者はグループに分かれ「ジェロントロジー研究においてどのような「視点」が重要か？」をテーマに議論しました。



総会の様子



研究プロジェクト報告



テーマセッション

イベントの予定

経営情報学部

2018 年 11 月 3 日（土）～ 4 日（日）

保証人向け学修・
就職個別相談会

多摩キャンパスにて開催予定
※「第 30 回多摩祭」同時開催

2018 年 11 月 11 日（日）

就職セミナー

多摩キャンパスにて開催予定
（10 月中旬頃に詳細・申し込み方法
についてご案内させていただきます）

グローバルスタディーズ学部

2018 年 11 月 4 日（日）

保証人対象留学フォーラム
及び就職セミナー

湘南キャンパスにて開催予定
※「第 12 回 SGS Festa」2 日目に開催
（10 月中旬頃に詳細・申し込み方法
についてご案内させていただきます）

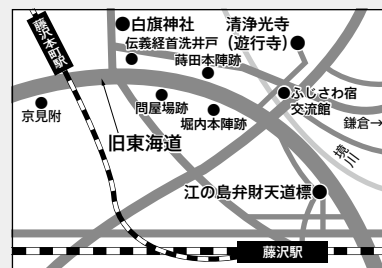
地域再発見

多摩地域の名所・旧跡 ① 藤沢宿（藤沢市）

多くの道が交差し、寺社参詣の人々が往来した宿場

多摩大学において、多摩地域とは、多摩川と相模川に挟まれた大きな三角地帯、さらに三浦半島なども含めた広域多摩地域と捉えています。このような多摩地域には、地方にとどまらず世界へもつながるグローバル（グローバル＋ローカル）な歴史が刻まれています。今回から始まる連載コラムの中では、多摩地域の魅力や価値を再発見する手掛かりとなるよう名所や旧跡を紹介していきます。

第 1 回は湘南キャンパスの所在地でもある神奈川県藤沢市の「藤沢宿」。1601（慶長 6）年東海道に伝馬制が制定され、寛永時代以降には五十三宿が整いました。東海道は江戸と京都を結ぶ幹線道路で、藤沢宿は江戸日本橋から数えて 6 番目の宿場でした。遊行寺東側の江戸見附から西へ 1.5km の京見附までを範囲とし、1843（天保 14）年には大名などの宿泊施設である本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、旅籠 45 軒がありました。藤沢宿の特色は、東海道を中心に北へ八王子道（滝山街道）、北西へ厚木道、東へ鎌倉道、南へ江の島道、北東へ大山道と多くの道に通じていたことでした。遊行寺は正式名称が藤沢山無量光院清浄光寺、鎌倉時代に創建された一遍を開祖とする時宗の総本山です。「遊行寺」は通称で、踊念仏を営みながら全国を行脚した遊行上人一遍に由来し、中世の藤沢は門前町として栄えました。江戸時代は大山詣でや江の島弁財天詣での人々も行き交い、参詣者の交通路、宿泊地として賑わったようです。藤沢宿の主な名所には、源義経の首を洗い清めたと伝わる「義経首洗井戸」、寒川比古命や義経を祭神とする「白旗神社」があります。歌川広重の『東海道五拾三次之内 藤沢』には江の島一ノ鳥居と遊行寺が描かれていますが、残念ながら今はもう当時の宿場の面影を見ることはできません。しかし、道路沿いに設置されたトランスボックスには、江戸時代の名所絵図から近年の古い町並みの写真までラッピングされているので、散策しながら歴史の変遷の一端を知ることができます。



清浄光寺（遊行寺）



白旗神社



江の島道・江の島弁財天道標

卒業生インタビュー

高い志をもって社会で活躍している多摩大学の卒業生たち。大学で身につけた力が今、社会でどのように生かされているかを聞きました。

※所属や肩書などは取材当時のものです。

アスノシステム株式会社 代表取締役社長 齋藤 武育 経営情報学部 2004 年卒業

経営情報学部

チャレンジ精神を尊重して、創造性に満ちた事業を展開していく。

学生時代に取り組んだこと

現在はシステム開発や Web インテグレーションの事業に携わっていますが、多摩大学で所属していた杉田文章教授のゼミは、レジャーやスポーツなど“余暇”の過ごし方を切り口に社会のあり方を考察するものでした。中でも私は「接客」をテーマに選び、“おもてなし”と“サービス”の違いを研究しました。日常的に受けている接客も、それを構成する心がまえや行動を理解した上で体験すると多くの新鮮な気づきがあります。教授から知識を学び、実践で検証し、新たな視点を獲得。その知見をもとに、また新たな知識を吸収する。このサイクルを回していくことが素直におもしろく、主体的に学ぶということの楽しさにのめり込んでいきました。

社会人になって思うこと

代表取締役社長として社員に伝えている言葉があります。それは、「失敗を恐れずどんどんチャレンジしてほしい」ということ。既成の常識にとらわれていては、成長はありません。自分でさまざまなことを試み、経験を積み重ねていく中でこそ、人間力が鍛えられていくのです。私が目指しているのは、チャレンジを尊重し、失敗から多くを学ぶ組織です。そのあり方は、多摩大学の理念に通じるものがあります。主体的に挑戦することを認め、視野が広がるように導いてくれた杉田ゼミがまさにそうでした。社会経験を積んだ今、多摩大学の実学が自分のものとなってきました。その意味では、在学時に先回りして実践的知恵を受け取っていたともいえます。これからも多様な分野にチャレンジし、時には失敗も経験し、それらの体験をもとに創造的な事業を展開していきたいと考えています。

(インタビュー:2018 年 1 月実施)



Profile

2004 年 3 月多摩大学経営情報学部を卒業後、日本ビューレット・パッカード株式会社に入社。エンジニアとして第一歩を踏み出す。2015 年、株式会社 MCEA ホールディングスに入社。2016 年にグループ会社であるアスノシステム株式会社の代表取締役に就任。

株式会社小田原鈴廣 流通営業チーム 流通営業部 流通一課 西田 直 グローバルスタディーズ学部 2012 年卒業

グローバルスタディーズ学部

新設学部で身に付けた主体性で、老舗のブランドを強くしていく。

学生時代に取り組んだこと

開設 2 年目の学部に入學し、「自分たちが主体となって、キャンパスライフを作り上げていこう」という思いで突き進んだ 4 年間でした。特に学園祭の運営には力を注ぎ、初代の実行委員長として、2 年間にわたりその役目を務めました。企画や広報、スタッフの確保、協賛金の募集など課題は山積みでしたが明るくポジティブに取り組み、近隣商店街の方々からイベント運営のノウハウをご指導いただけるようにもなりました。また、当時の学部長 松林正一郎教授の「リーダーシップ論」で教わった言葉「自分の人生を自分の思い描くものにしなければ、自分が動くしかない」を実践できたことが、まさに多摩大学で学んだ大きな意義だと思っています。

社会人になって思うこと

営業担当として多忙ながらも充実した日々を過ごす中で、多摩大学での学びが確実に今につながっていることを実感しています。「世界の食文化」などの講義では、ゲスト講師のビジネスパーソンが自身の経験を交えて語っていただきました。講師の方々共通して話されていたのは、相手の状況を徹底的に分析することの重要性です。私の仕事でも、地域による商品の売れ行きの偏りや、店舗によるコンセプトの違いがみられることがあります。でも、考え方や文化の多様性に直面したときこそ、大学での学びが壁を乗り越えるための礎となっているように思います。流通市場にも IoT の導入が進んでいますが、老舗企業でありながら、常に新しいことにチャレンジすることが“鈴廣”の方針。その前線に立ち、文化やトレンドを取り込みながら、“鈴廣”ブランドを強くする存在になりたいと考えています。

(インタビュー:2018 年 2 月実施)



Profile

2012 年 3 月多摩大学グローバルスタディーズ学部を卒業後、株式会社小田原鈴廣に入社。物流課、生産管理課を経て、2016 年から流通一課に配属となる。現在は、築地・神奈川を除く関東全域をフィールドに、流通市場やベンダーに向けた営業を担当している。

お知らせ

多摩キャンパス

2018 年 11 月 3 日(土)・4 日(日)

湘南キャンパス

経営情報学部

グローバルスタディーズ学部

第 30 回 多摩祭 グローカル・フェスタ 2018 in TAMA

第 12 回 SGS Festa 2018

パズル～俺たちのつくった 30 ピース～

Visualise (ビジュアルイズ)